

APIMo+中山教室では、本人主体の個別支援計画を作成し、5領域に基づく以下の支援プログラムを組み合わせた活動を行っています。

1. 健康・生活

(1) 健康状態の把握・維持・改善 (2) 生活リズムや生活習慣の形成 (3) 基本的な生活スキルの獲得

具体的な支援内容

健康状態の把握

- ①健康や精神状態に関する保護者様からの連絡等を周知し、必要な配慮を行います。
- ②健康状態の常なるチェックと必要に応じた対応を行います。
- ③意思表示が困難な利用者様に関しては小さなサイン等、心身の異変に気づけるよう観察を行います。

健康の維持・改善

- ①食事、排泄の基本的なリズムを身に付けられるよう支援します。
- ②健康促進できる活動を取り入れていきます。又、病気の予防や安全への配慮を行います。

基本的な生活スキルの獲得

- ①身の回りを清潔にし(手洗い、消毒)、食事、衣類の脱着、排泄等の生活に必要な基本的技術を獲得できるよう支援します。

構造化等により生活環境を整える

- ①活動に応じた空間の構造化を行います。
- ②個々の特性に配慮し、状況が理解できる声掛けや目で見て分かる環境の設定を行います。

2. 運動・感覚

(1) 姿勢と運動・動作の向上 (2) 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 (3) 保有する感覚の総合的な活用

具体的な支援内容

姿勢と運動・動作の向上

- ①日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作の改善及び習得、筋力の維持や強化を図ります。靴の着脱、手洗い、排泄、食事等の基本的動作を主にを行います。
- ②椅子や机を用いた活動の中で正しい姿勢の習得が出来るよう支援します。朝の会や学習等、個々が集中できる時間に「正しい姿勢で座る」を身に付けられるようにします。

補助的な手段の活用

- ①個人のメガネや補聴器、食事において自助具など各種の補助器具を効果的に活用できるよう支援します。

保有する感覚の活用

- ①保有する五感を十分に活かすことができるよう、活動や遊びを通して支援します。
- ②バランス感覚など体の使い方や強弱、方向の感覚を見つけれられるように支援します。

感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応

- ①感覚や認知の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行います。

3. 認知・行動

(1) 認知の発達と行動の習得 (2) 空間・時間・数等の概念形成の習得 (3) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

具体的な支援内容

認知の発達と行動の習得

- ①五感を十分に活用し(色や形、音や声、香りや味、触り心地や温度等)必要な情報を収集できるよう、認知機能の発達を促す支援を行います。
- ②環境から情報を習得し、そこから必要な情報やメッセージを選択し行動に繋げるという一連の認知過程の発達を支援します。
- ③活動では情報を収集しやすいよう、言葉以外に絵や写真を用いたり、実際に職員が演じて「目で見て理解できる」内容として手順を提示し、自らが行動につなげられるよう支援します。

空間・時間・数量等の概念形成の習得

- ①多い・少ない、大きい・小さい、長い・短いなどの概念が「目で見て理解できる」具体的な対象物を用いて支援します。

対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

- ①認知の偏りといった特性に配慮し、絵や写真、文字等個々が理解できる情報を提示し、自身で適切に情報を処理し選択できるよう支援します。
- ②昼食やおやつ等を含め、こだわりや偏食について軽減できるように支援します。

4. 言語・コミュニケーション

(1) 言語の形成と活用 (2) 言語の受容及び表出 (3) コミュニケーションの基礎的能力の向上と手段の選択と活用

具体的な支援内容

言語形成と活用

- ①具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行います。
- ②「目で見て理解できる」内容を掲示して職員が代弁しする等、個々の特性に合わせて配慮し支援します。
- ③言葉を通して身近な物や人を表して受容が行えるように支援します

言語の受容及び表出

- ①話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり自分の考えを伝えたりする等、言語を受容し表出する支援を行います。受容が少しずつ進み自ら伝えたい、発信したいと思えるように職員との信頼関係を構築していきます。
- ②絵本、絵カード等で状況や対象物等、ことばの反復練習や発達、障害の特性に応じた読み書き能力向上の為の支援を行います。又、気持ちの代弁経験を通して支援を行います

コミュニケーションの基礎的能力の向上と手段の選択と活用

- ①言語的コミュニケーション能力に応じて、正しい言葉の理解と活用方法を繰り返し場面に応じて伝えていく等、コミュニケーション能力向上の為の支援を行います。
- ②非言語的コミュニケーションでは場面に応じたジェスチャーや仕草、表情やサインを繰り返し伝え、意思の伝達ができるよう支援します。
- ③各種の文字・記号・絵カード・機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援を行います。

5. 人間関係・社会性

(1) 他者との関わり(人間関係)の形成 (2) 自己の理解と行動の調整 (3) 仲間づくりと集団への参加

具体的な支援内容

アタッチメント形成

- ①話す・聞く・触れるなどのコミュニケーションを通して、人との関係を意識し、身近な人との信頼関係を構築していきます。その信頼関係を基盤として周囲の人や友だちと安定した関係を形成するための支援を行います。
- ②感覚機能を使った遊び、運動機能を働かせる遊び、ごっこ遊びといった遊びや活動を通して経験を重ね、徐々に社会性の発達を支援します。

自己理解とコントロールのための支援

- ①個々の特性を理解して、声掛けや指示のタイミングや方法に配慮して支援します。できる、できない等の自身の行動特性を理解し、気持ちや感情の調整ができるよう支援します。又、職員が一人ひとりの気持ちを代弁する等必要な助力を行いながら対人関係を円滑に促します。

集団への参加と支援

- ①一人遊びから並行遊び、大人が介入して行う連合遊び、役割分担をしたりルールを守って遊ぶ協同遊び等、個別の活動から集団活動への移行には、個々の特性を理解し状況や状態に合わせて徐々に社会性の発達を育む支援を行います。
- ②相手の気持ちや状況の理解が円滑に行えるように支援者がフィルターとなり相互理解が図れるように支援します。